



群私幼

No.
176

2016年(平成28年)10月5日発行
群馬県私立幼稚園・認定こども園協会

発行人 原 徳明
編集人 高月 広喜

群私幼事務局/☎371-0854 前橋市大渡町1-10-7
群馬県公社総合ビル6F 私学センター内
TEL.027-280-6206
FAX.027-280-6208
URL・http://www.gunshiyou.jp/



ドングリ拾い「ドングリって不思議だね」

CONTENTS

- ② 夏の研修特集
 - *新採研(中期Ⅰ)(7/25・26)
 - *中級講座(8/1・2)
 - ③ *新採研(中期Ⅱ①・②)(8/3)(8/8・9)
 - *上級講座(8/4・5)
 - ④ *初級講座(8/10・11)
 - *第7回幼児教育実践学会(8/18・19)
 - *全日私幼連関東地区教員研修埼玉大会(8/23・24)
 - ⑤ 幼稚園訪問記
 - * (認)第二あさひ幼稚園
 - ほほえみインタビュー
 - * (認)ひかり幼稚園
 - ⑥ 連載「フロムぐんまちゃん」
新企画「あそびのタネ」
 - ⑦ 幼児教育センターの保育相談Q & A
リフレッシュ ～私の夏休み～
*すぎの子幼稚園
就職説明会・適性検査報告
 - ⑧ 研修だより
 - *新採研(前期Ⅲ)(5/27)
 - *主任研修会(6/8)
 - *教育課程研究協議会(6/24)
 - *幼稚園バス乗務員安全運転講習会(7/22)
 - *園長・設置者特別研修会(8/30)
- 編集後記

ニューリーダーの会 やまね座 研修会

ニューリーダー主催の研修会では座員の方の指導の下、発声の仕方・顔や手足の動かし方など様々な表現の仕方を教えて頂きました。またボンポンを使い「あおむし」製作も楽しく行いました。私自身とても楽しかったので、是非クラスでも「あおむし」を使い表現も豊かに人形劇をしてみようと思えました。園に持ち帰り実演すると、子ども達も興味津々で問いかけにも楽しそうに答えていました。この楽しい時を共有できたことで子どもとの距離もグッと近くなったように思いました。ありがとうございました。

(さくら幼稚園 荒牧 香織)



'16 夏の研修会特集 参加者レポートより



今年も充実した夏の研修会 上級講座開会式の様子

新規採用教員研修 中期Ⅰ

とき 7月25日～26日
ところ 群馬県勤労福祉センター

(認)のぞみ幼稚園 橋本 将人

今回の新規採用教員研修中期Ⅰでは、「エンカウンター」「保護者からの視点」「子どものかかりやすい病気」「パネルシアター製作と発表」「チーム保育における教師としての共通理解」について学ばせて頂きました。

私はその中でも特に心に残った2つに



エンカウンターでのひとこま。お互いの心と体をストレッチ

ついて書きたいと思います。1つ目は「エンカウンター」です。エンカウンターでは、様々なエクササイズから今すぐにも使えるカウンセリングのスキルを身につけることができました。そして、全員で心を一つにした人間イースが成功したときには、子どものようにうれしく思いました。

2つ目は、「チーム保育における教師としての共通理解」です。この座談では、どのようなことを共通理解しておくべきか、また、共通理解することの大切さや難しさについて学ぶことができました。

今回の研修で培ったものを礎に、明日からの保育にも生かして、保育の技術を向上させていきたいと思えます。



「パネルシアターの魅力」について話された古宇田亮順先生

中級講座

とき 8月1日～2日
ところ ホテル天坊(伊香保)



「チーム保育における教師としての共通理解」をテーマに座談する様子

さくら幼稚園 橋本 三智子

2日間にわたる研修会は「ミドルリーダーとして自分の保育をひとこまで語れますか?」の基調講演から始まりました。この講演でミドルリーダーの役割を知り、

保育者自信のコミュニケーション能力と組織の中で自分の立ち位置を考える事の必要性を学びました。これを受けての講演「絵本の世界」では子どもの主体的な育ちを支える為の「読み合い」という内容で、子どものころもちに寄り添いながら、生きる力を育んでいく時間の大切さを改めて実感させられました。

【パネルシアターの魅力】は講師の先生の実演がとても楽しく魅了されました。

【分科会】では各々のテーマについて資料を持ち寄り、様々な園の先生方と意見を交わす良い機会となりました。活発な話し合いの中からヒントを得る事もでき、課題へとつながりました。

今回の研修会は、とても具体的に実践的な内容となっていました。学んだ事を活かし、早速2学期から実行していきたいよう取り組んでいきたいと思えます。



資料を持ち寄り、有意義な意見交換となりました



全体でひとつの音楽をまとめた楽器遊び

新規採用教員研修 中期Ⅱ①②

中期Ⅱ①

とき 8月3日
ところ 県立県民健康科学大学

中期Ⅱ②

とき 8月8日～9日
ところ 県立東毛青少年自然の家

(認)のびのび幼稚園 千明 加奈

3日に行われた楽器遊びの講義では、研修生を3つのグループに分け、それぞれ異なるリズムを表現し、その後、全体で合わせて1つの音楽ができあがった時はとても感動し、改めて音楽の楽しさを実感しました。新聞紙の性質を利用した



うどん作りに挑戦し、美味しくできました

廃材を活用する講義では、子どもが自分で感じて、考えて、行動できる大人になるために、保育者は1つの考えだけにとらわれず視野を広げ、子どもの思いを認め寄り添う大切さを学びました。

また、4月から共に頑張ってきた仲間との1泊2日の宿泊研修では、様々な体験を通して多くのことを学び、充実した時間を過ごすことができました。日々の保育で1人の子どもの様子を記録したことについて話し合うグループ活動では、今まで自分が気付かなかった新しい発見ができ、とても貴重な時間でした。

これからは、自分たちが思い描く保育者になれるよう、研修で学んだことを生かし、出会った仲間を大切に切磋琢磨しながら努力していきたいと思えます。

上級講座

とき 8月4日～5日
ところ ホテル天坊(伊香保)

(認)二子幼稚園 殿木 結花

上級講座の貴重な講演、分科会等に参加でき、自分の保育を見つめ直す良い機会となりました。講演会では、保育の中で子どもの思いが上手く読み取れない時には、自分の身に置き換えたり、自分と違う人として、その子の経験プロセスを辿ったりする事から、保育者の見方が変わり、子どもの姿が変わるということを学び、いつもと違う目線で見える大切さを改めて振り返ることができました。また乳児期には、共有することで「よくないこと」を自然と理解できるようになること

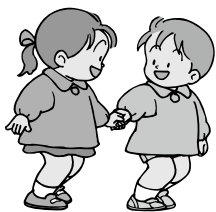


乳児の学びについて講演された井桁容子先生

を学び、見守ること、共感することの意味を理解し直し、今後に活かしていきたいと思えました。アレルギーの対応では、園や学校での対応法を詳しく教えて頂きました。園で活かせることが沢山あり、今後慎重に対応していきたいと思えました。分科会、パネルディスカッションでは、園での生活の仕方や保育日誌の書き方、行事の進め方等について他園との比較の中で見つめ直す事ができ、大変参考となりました。今後も、子ども一人ひとりの気持ちと向き合い、寄り添う保育を大切に続けていきたいと思えます。



分科会でも充実した協議ができました



初級講座

とき 8月10日～11日
ところ ホテル天坊(伊香保)

わかくさ幼稚園 小泉 遥

1日目、午前の基調講演「子どもの世界の探求」では、日々慌ただしく保育に携わり、つい見逃してしまっている子ども達の姿を、振り返り考察することの重要性を学びました。午後の講演「子ども理解と保護者相談」は、良い関係づくりのヒントとしては、保護者と接する上で、保育の専門性を兼ね備えた保育者の「保護者対応」について深く学びました。そして、パネルディスカッション「よく遊びよく学べ」では、経験豊富な先生方から様々なエピソードを通して、保育に関



講演と分科会をつなぐ1日目のパネルディスカッションの様子

する予期せぬ諸問題にどのように対応し乗り越えてきたか、という経験談を聞く事が出来ました。これからの保育に勇気を持って取り組める、貴重で参考になった内容でした。
2日目は5つの分科会が行われ、それぞれが実践的で、楽しく、身になる取り組みができました。私自身3年目で、今回の講座で初級は最後になりましたが、研修を終えて新たなスタート台に立った気持ちになりました。そして、さらに保育の専門性を身に付け、誰からも信頼される保育者になりたいと思いました。



分科会ごとに研修の成果を発表

第7回幼児教育実践学会

とき 8月18日～19日
ところ 東京家政大学板橋キャンパス

(認金山幼稚園 園長 森下 幸夫)

(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構が主催する「第7回幼児教育実践学会」が東京家政大学で開かれました。今年のテーマである「人生のスタートこそ良質な教育を」は、保育臨床の視点を大切に、保育の質を問いつづけようとのもと、保育現場をより豊かなものにしようとする様々な研究発表が成されました。

全日私幼連関東地区 教員研修埼玉大会

とき 8月23日～24日
ところ さいたま市 大宮ソニックシティ

人生のスタートにこそ良質な教育を子どもたちの幸せを願って、今をテーマとしました第31回全日本私立幼稚園連合会関東地区教員研修 埼玉大会に参加しました。

1日目は開会式の後、記念講演(講師…天野 篤先生)及びアトラクションとして(講演…オペラ彩)『泣いた赤鬼』と盛りだくさんの内容でした。

2日目は、研修会の柱となる各地区のフォーラムですが、群馬県は一般フォーラム1において『愛されて育つ子ども』というテーマで行いました。問題提起者は、清風幼稚園 猪鼻友里教諭、静和第

二幼稚園下山茜教諭とお手伝いの教諭(各園1名計4名) 2園の発表をしてもらいその内容を受けて、内部ゲスト金子仁先生(木の実幼稚園長)やコーディネーター小和瀬たかみ先生(高崎健康福祉大学附属幼稚園長)からの助言を受けて、午前の部は終了しました。
午後の部では、外部ゲストの大方美香先生にまよめの助言をして頂き、その後その内容を受けて各園での取り組みや進め方などポストイニング形式で内容をまとめてグループ討議を進めました。先生同士の討議は熱を帯び、その内容を分担で記録し、発表をしいフォーラムは有意義にすすめられて、フォーラムに参加した先生達は、この研修会での学びを自園に持ち帰りこれからの保育にも役立たせてくれることと思います。

(副編集長/小林)



2日目のフォーラムでのひとこま



木の香りと温もりを感じる廊下

初は幼稚園部分と保育

7月上旬に七夕飾りが幼稚園の廊下を煌びやかに飾り付けられた第一あさひ幼稚園へ伺いました。天然素材をふんだんに使用した園舎に入ると、優しい木の香りとぬくもりが私たちを迎えてくれました。廊下にはさりげなく卒業制作が額に入れて飾られていて、巣立っていった子ども達の生き生きとした造形が私たちにいくつもの物語を与えてくれました。平成27年度から幼保連携型認定子ども園になり、1歳児から受け入れてあります。伺った時間はちょうど1歳児の午睡の時間ということもあり1階は静まりかえっていましたが、2階では子ども達がテラスにあるプールでにぎやかに水遊びをしていました。園舎を案内していただいた後、竹内園長先生と教頭先生からお話を伺いました。幼保連携型認定子ども園になって、子ども達の成長を長い目で見守り喜びを感じることが

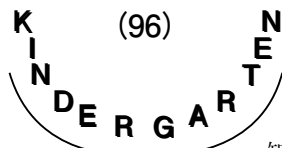
(認)第二あさひ幼稚園の巻
(前橋市)
つよい自分とやさしいわたし



正面を入ると創立者の銅像があり、歴史と伝統を大切にしていることが伺えます

幼稚園訪問記

シリーズ



園舎を案内していただいた後、竹内園長先生と教頭先生からお話を伺いました。幼保連携型認定子ども園になって、子ども達の成長を長い目で見守り喜びを感じることが出来るのは1番良いところと園長先生がおっしゃっていました。当初は幼稚園部分と保育

園長先生は、幼稚園の特色として「かしこく・やさしく・たくましく」を教育目標としていること、異文化に触れることを目的とした週1度の英語教育や体操教室をあげていらっしゃいました。

園部分の連携が難しく、保育観や文化の違いにとまどいがあったようですが、リーダー会議を重ね、変わってはいかないこと、つなげていくこと、意識を変えて改善していかなくてはいけないことを話し合い、「今できることをやろう!」を合言葉に先生方が主体的に、柔軟に保育の課題に取り組んでいることが分かりました。先生方のアイデアから生まれたブルーシートの日除けは、雨水がたまらないように丸や三角で切り抜かれていて見た目にもかわりやすく楽しいデザインで、幼稚園の柔軟な保育を象徴しているように感じました。



雨でも思い切り体を動かせるホール

栗原/記



今回の訪問を通して1番の魅力はのびのびと自由に保育する先生方とそれではないかと思えました。おらかさではないかと思えました。そして伝統的な教育スローガンである「つよい自分とやさしいわたし」を体現している園長先生のソフトで新しいリーダーシップの形が変革の時期に先生方の連携を強め、保育に成果を出しているのだと感じました。

①幼稚園の先生になった理由は？
小さい頃から気づくと周りにはいつも沢山の子も達に囲まれ、面倒を見てもらったり世話をしたりと、色々な縦の友だちとの関わりを身近に感じ、優しさや思いやりに気付かされました。大好きな子ども達に関わり面倒をみてあげられる職に就きたいと思ったのがきっかけです。

②忘れられないエピソード
泣いて登園をして来た男の子がどうしても慣れず声を掛けると「おばあちゃん先生はいやだ!」と言われてしまいました。担任第一の子も達にはしようがない事ですが、大ショック。元気だけでは誰にも負けないと自負していた私も、若さだけには勝てませんでした。もうこの年齢から美への関心があるのかとびっくりです(笑) ちなみに今は、大の仲良しです。

③自園の一言PR(プチ自慢)
アットホームな雰囲気の中で広い園庭には、いつも元気いっぱいいな子ども達の声が響き、遊びの楽しさを皆で共有しています。また、自園の畑で野菜の苗植えや収穫をすることで食育に興味を持ち、苦手な食物にも挑戦する気持ちが育っています。



ほほえみインタビュー(49)

(認)ひかり幼稚園 教頭 齋藤 啓子



④休日の過ごし方
食べる事や身体を動かすことが大好きで、美味しいと聞けば少し遠くても足を運んだり、大好きなショッピングに出かけ気分を発散したりと、1週間の疲れもそこそこに貴重な休日を満喫しています。

⑤教頭として心がけていること
時代と共に変化する保育に乗り遅れないように自分自身の知識をより深め、保育の現場に活かしていきけるように努力し、若手の先生達が日々の保育に専念出来るように、縁の下の力持ちとして日々のつぶやきを受け止められる存在でありたいと思っています。

⑥今気に入っておすすめなもの？
おすすめではありませんが、長年眠っていたミシンを出してきて洋服を始めました。布選びから型選びと初孫の為にワクワクな気分で作っています。時には曲がった針目を見ては「愛情・愛情」と自分に言い聞かせ自己満足をしています。



「フロムぐんまちゃん」 県からのタイムリーな話題

来たる10月28日は群馬県民の日です

群馬県民の日は、昭和58年に「第38回国民体育大会（あかぎ国体）」「第19回全国身体障害者スポーツ大会（愛のあかぎ大会）」が開催され、県民意識が高まったことをきっかけに「郷土の歴史を知り、郷土についての理解と関心を深め、自治の意識を高めるとともに、より豊かな郷土を築きあげることを期する日」（群馬県民の日を定める条例第一条）として昭和60年に制定され、今年で32回目を迎えます。

「10月28日」に決定した由来は、廃藩置県により設置された9県のうち8県が、明治4年のこの日に統合され、初めて「群馬県」が成立したことにあります。

今年も、県民の日を記念してたくさんの記念事業が実施されます。この機会に、これらの催しを通して、郷土の歴史や文化、豊かな自然などにふれ、ふるさと「群馬県」の魅力に子ども達とともにふれてみませんか。

【第32回群馬県民の日記念事業】

○期間

10月1日(土)～11月3日(木)の34日間

○内容

県内外各地で様々な催しが行われるほか、博物館、運動場、遊園地、温泉などが無料・割引開放されます。

詳しくは県ホームページ (<http://www.pref.gunma.jp/>) または県庁県民センター、各行政県税事務所、各市町村役場などで配布している一覧をご覧ください。

○問い合わせ先

・県庁県民センター
TEL/027-226-2262
FAX/027-223-2944
・各記念事業実施先



新企画

「あそびのタネ」

「このあそびがたくさんの園で芽を出し花開くことをねがって」

「色水あそび」

（オシロイバナ・夕化粧の花を使って）

（ねらい）

自然などの身近な事象に関心を持ち、取り入れて遊ぶ。

①園庭に咲くオシロイバナ（夕化粧）の花で赤い色水ができることを知る。

②その色水を使ってジュース屋さんごっこを楽しむ。重曹（炭酸水素ナトリウム）とクエン酸で泡のでる色水ソーダを作ってみる。

③重曹水とクエン酸水から炭酸水ができることを知る。

（準備）

オシロイバナの花・ビニール袋・水・紙コップ・ペットボトルの空容器・砂場用ジョーゴ・重曹水・クエン酸水（あそびの様子）

毎年夏から秋の園庭に自生する多年草のオシロイバナ（和名・夕化粧）を、子ども達は花や種を摘んだりして遊んでいたが、この活動を発見や感動さらに科学的な見方・考え方の芽生えを培う体験となるよう「色水あそび」から考えたてみた。

園庭に咲いているオシロイバナの花を15枚摘み、ビニール袋に集めて水を袋の半分位入れ口を縛る。ふくろが破れないように花を揉むと、



花を摘んで色水を作る

赤い色水ができる。採み込み方によって透明から赤色に変わったり、色水に濃淡ができる驚きを体験して、それぞれ少しずつ違う色水の袋を自慢そうに見せ合う姿があった。ペットボトルの空容器に砂場用のジョーゴを使い袋の色水を入れると赤色のジュースができたということになり、ジュース屋さんが始まる。



ジュース屋さんごっこ

さらに、ペットボトルの色水を紙コップに入れ、それを売る活動となり、楽しそうに売り買ひするごっこあそびに発展。自転車のデリバリーも始まりジュース屋さんは大賑わいとなる。ここで、クエン酸大さじ1を500mlのペットボトルの水で溶かした水溶液と、重曹（炭酸化ナトリウム）大さじ1を500mlのペットボトルの水で溶かした水溶液を作り、特にその水溶液がなにかであるか話さず、それぞれ同量を色水のペットボトルに注いで炭酸色水を作ってみせた。噴出すように泡（炭酸）が発生して驚きの声があがる。泡のでるサイダーも売り出されさらに盛り上がった活動となる。なぜ泡がでたのか不思議だなという疑問を残したまま活動は終わりとなった。

後日、子ども達の中でこのことを知っていたことになり、発達段階を考慮し年長を対象になぜ泡がでるのかを子ども達と一緒に試してみた。クエン酸水と重曹水を混ぜると炭酸水ができること、のしくみを実際にみせながら説明した。泡が出た瞬間の歓声と驚きの表情から、科学的内容は難しいがその見方や考え方の芽生えを培う活動になったように思う。

（押江／記）



炭酸水を作る

幼児教育センターの 保育相談Q&A

連載21

群馬県総合教育センター
幼児教育センター長

小林 澄子

Q 5歳児の保護者から「小学校での生活が不安」との相談を受けました。幼稚園はどのような対応が必要でしょうか。

A 就学時健診の時期を迎え、保護者は我が子の小学校入学に対して大きな喜びと共に、様々な不安を感じるものです。そのことをまず受け止めて、次のような取組をしてみましょう。

○保護者に協力を求めましょう。
新しい環境の中で、子どもが自信を持って元気に生活するためには心身の健康が大切です。その基礎となるのが起床や就寝、食事の時間等の生活リズムの確立です。本来は家庭が担う内容ですが、幼小の生活の違いを知らせながら、「協力を求める」という姿勢で保護者を支援しましょう。また、子どもの発達に不安を抱える方には個別対応が不可欠です。

○時間を意識させる保育・指導を行うこと
とで子どもの成長を連続させましょう。
幼稚園では、幼児は興味・関心を持つ対象に納得するまで向き合い、遊び込むことで自分の思いを満足させることができます。一方、小学校では時間の制約の中で活動しなければならぬことが多く、そのことが不適應の一因となることもあるのです。そこで、1日の流れを掲示する、模擬時計を利用する、モジュール的保育を取り入れるなどの工夫で小学校への滑らかな接続を図りましょう。

お便りなどを活用して、園での取組を紹介することも、小学校入学に対する保護者の不安軽減に役立ちますね。

○幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をイメージし指導計画を見直しましょう。

幼稚園教育は、生涯にわたる教育の基礎を培う重要なものです。ですから、単なる小学校教育の前倒しではなく、好奇心や探究心を満足させながら「学ぶ意欲」「思考力の基礎」を培うものでなければならず、このことが「小学校へ行っても頑張れる」という気持ちにつながります。また、指導計画の加除修正は担任1人ではなく園内研修等を活用して行うことで、園全体の教育・保育の質も向上します。

リフレジジュ〜私の夏休み〜

「私の夏休み」

すぎの子幼稚園 市川ウエルシユ青葉

11月に初めての出産を控え、お腹の宝物も日々成長中。職場でも徐々に体に負担の少ない業務に配慮してもらい、周りのサポートが身にしみえます。以前は休みとあれば遠方に家族を訪ねたり、スキーやボードをしたりと活発にリフレジジュしていた私。今年の夏は心と体の変化に向き合いつつ、家の周りでゆったり過ごしました。特に楽しみだったのが、母と妹の訪問。半年ぶりに会い、夫も含め4人でスペインごっこをしました。今年初めに夫の実家を訪ね楽しんだスペイン料理を手作りで再現。たまに夫婦で開催している会ですが、回を重ね美味しいものができるようになってきました。母はスペインパン、妹はタコのガリシア風を気に入ってくれ、昼過ぎからながい食事と会話を楽しみ、心身ともにスッキリしました。

2人とも来てくれてありがとう！妊娠を機に家族の存在の大きさを再認識する今日この頃です。



● 報告 ●

就職説明会を終えて

と き 7月3日
と ころ ホテルラシーネ新前橋

今回は前回(46園)よりも多い60園の参加があった。就職説明会に参加した学生は養成校25校から300名であった。前回(387名)から比べると87名の減員であったが参加した学生はいくつかの参加園ブースを真剣な表情で回っていた。昨年の反省を踏まえ東部地区及び中部地区、西部地区の2部屋にわかれブースを設置したが特に大きな混乱もなく予定通り説明会が行なわれた。学生にとっては就職先の内容の把握という視点、参加園にとつては様々な学生の情報入手という点で大変有益な会になったのではないだろうか。新制度に移行した今、就職説明会の必要性が増し、より多くの園が参加することの必要性を感じる会だった。

(実行委員長/金子)

群馬県私立幼稚園・認定こども園 幼稚園教諭・保育士適性検査

と き 8月27日
と ころ 高崎商科大学

今年は無許取得見込の出願者489名中、当日の受検者480名(欠席者9名)が受検しました。例年同様、一般教養をマークシート式で(平均点52.3点)、教職教養その他が記述式にて行われました。受検者にとつては、夢見ていた幼稚園・認定こども園に来年年度から就職できるかどうかの大事な検査。みな真剣に受検していました。土曜日の小雨の中、試験官としてまた駐車場係としてお手伝いいただいた先生方、大変ありがとうございました。(実行委員長/守山)

○ 役員退任のお知らせ ○

理事 高月 広喜先生
(平成28年8月31日 辞任)

新規採用教員研修 前期Ⅲ

とき 5月27日
ところ 県総合教育センター

高崎健康福祉大学附属幼稚園 新井 瑞希
私は今回の新任研修に参加し、幼稚園教諭として大切な沢山のことを学ばせていただきました。

中でも、1番印象に残っていることは、特別な支援を必要とする子どもの理解、支援をするために幼稚園教諭がもつべき視点や考え方についてです。子ども達と関わるにあたり、一人ひとりの子の姿を真つすぐに、そして丁寧に捉えることが幼児理解の第一歩であることに改めて気がきました。その子にとって支援が必要かどうかが大切なのではなく、本当に必要なのは保育者として子を見る「目」を意識していくことだと思いました。

今、新任の私にできることは、日々の保育で様々な経験をしながら新しい知識を自ら吸収していくことだと思えます。その為には、自分自身の視野を広げ、常にアンテナを立てて、色々なことに興味関心をもつことが大切になってくると思えます。これからも「学ぶ」ことを忘れずに頑張っていきます。

主任研修会

とき 6月8日
ところ 県公社総合ビル

大利根南幼稚園 神戸 清花
主任研修会では、中間管理職としての役目、家庭支援のあり方について、沢山

のことを学ばせて頂きました。

中間管理職として求められる役割について、

パネルディスカッションでお話を頂いた中で自己課題を見つけることができ、問題意識を持つことや、自己研鑽を重ねていくことの大切さを再確認することができました。

また、大阪総合保育大学教授の大方美香先生より、支援は必ずしも答えが必要ではなく、共に考えていくことや、じっくりと話を聞くことも支援というお話から、今後の支援のあり方について、保護者や子ども達を取り巻く環境や実態を踏まえ、より深く考えていきたいと思えました。講演を受けてのバズセッションでは、様々な意見や考え方に触れることができ、大変貴重な時間となりました。



家庭支援のあり方について講演された大方美香先生

教育課程研究協議会

とき 6月24日
ところ 県総合教育センター

朝日が丘幼稚園 清水ありさ
今回の研修を通して、学びのつながりの大切さを再確認することが出来ました。子ども達が、これから社会に出てより良い人生を送っていく為には、幼稚園で遊びを通して様々なことを経験し、思考力や判断力、表現力等を身に付け、それらを活用する術を学んでいく大切な時期だと分かりました。その為には、保育者が日々の保育計画を振り返り、見直し、計画していく繰り返しが大切な事にも気付かされました。また、「特別な支援を必要とする幼児の保育について」の講演では、気

なる幼児への関わり方や声掛けの仕方、具体的な援助方法などを学ぶことができました。今回の研修により、自分の保育を見つめ直すきっかけとなったので、また日々の保育に生かしていきたいと思えます。

幼稚園バス乗務員安全運転講習会

とき 7月22日
ところ 赤城自動車教習所

(認)山王幼稚園 尾崎 博
毎日数多くの子ども達が利用している幼稚園バス。万が一にも起きてはならない交通事故を未然に防ごうと、交通安全講習会が開かれました。

伊勢崎署の交通課長様からは、しっかりと休み、良い健康状態で運転に臨んでくださいとまず話がありました。また、映像をふまえた事故事例や予知・予測の話がありました。その中でも特に大事だなと感じたのは、交差点での事故がやはり圧倒的に多いことです。特に右折をする際、左右どちらかの見落としがあり、事故になってしまいう話が耳に残りました。確かに自分自身が運転をしていて、こちらを見ずに無理に右折をしようとすると、この車を今年度だけで2回見えています。「あの車はこちらを見ていないな。もしかしたら、無理に入ってくるかもしれない」といった「かもしれない運転」(予知・予測)を大切にしていきたくと改めて感じました。

講習の後には実際にバスを運転しながら指導員の方にアドバイスをさせて頂きました。死角となり、見落としやすい場面。カーブを曲がる際の運転席と子ども達の席の揺れの大きさの違いなど、自分の運転を客観的に見直すことができました。これからは常に緊張感を持ちながら安全運転をしていけるよう心掛けたいと思えます。

園長・設置者特別研修会

とき 8月30日
ところ 県公社総合ビル

(認)のびのび幼稚園 園長 須田 征洋
子ども・子育て支援新制度が施行されて2年目を迎えました。施行前、おぼろげに見えていたものが、新制度初年の1年を経て、輪郭が見えるようになりました。平成28年8月30日に開催された特別研修会では、県及び前橋市より担当部署者同席のもと、この輪郭をよりはっきりさせようと、施設型給付に係る「加算」に焦点を当て、公定価格試算シートを資料に研修が行われました。

加算される単価は、利用定員により区分された金額をもとに、各月初日の在籍園児数と掛け合わせて求められます。重要なのは、利用定員数と在籍園児数が乖離していないことであると再確認いたしました。

編集後記

新制度から1年半が経過しますが、広報を編集していく中で、園名の前に(認)の文字が多く見受けられる様になり、認定子ども園となった園が以前と比べ増えていることを改めて感じました。

様々な形態の園がありますが、今後とも会員園が情報を共有し、より良い園運営が展開できることを期待いたします。

私事ではございますが、8月末日をもって勤めていた学園を退職したことに伴い、群私幼理事の職も退任いたしました。

広報では編集委員で2年、編集長として3年半、大変お世話になりました。ご協力いただきました皆様方に感謝申し上げますとともに、群私幼と会員各園の今後益々の発展をお祈りいたします。(高月/記)